

8 グループ代表者発表 概要整理

A グループ：子どもとボランティア活動の広がり

- ・子どもに関わる活動を通じて、ボランティアの意義を再認識した。
- ・子どもたちの生の声を地域に伝えることで、若い世代にも活動の魅力が伝わる。
- ・子どもをきっかけに大人が動く事例もあり、次世代を軸にした地域づくりの可能性が示された。

B グループ：子育て世代の視点と環境意識の継承

- ・子育てしやすいまちであることが地域の魅力として共有された。
- ・海や川のごみ問題など、環境課題を次世代へどう伝えるかが話題となった。
- ・高校生・学生によるビーチクリーン活動など、若い世代の主体的取組が心強いとの意見があった。

C グループ：地域活動の情報発信とつながりづくり

- ・情報発信の難しさが課題として挙げられた。
- ・SNS などのデジタル媒体と紙媒体・ロコミなどアナログ手法の併用が有効との意見。
- ・地域イベントでの対面交流をきっかけに、デジタルにつなげる工夫が提案された。

D グループ：障害理解と日常的な関係づくり

- ・障害のある方の特性を「個性」として理解するため、若い頃からの接点づくりが重要。
- ・趣味や日常活動を通じて自然に理解を深める方法が有効との意見。
- ・日常のあいさつや声かけが、災害時の支援にもつながるとの認識が共有された。

E グループ：世代間・団体間をつなぐ仕組み

- ・活動参加には「声をかけるきっかけ」が重要。
- ・若者と既存団体を結ぶ中間的役割（プラットフォーム）が必要との意見。
- ・既存ネットワークの活用により、つながりを広げられる可能性が示された。

F グループ：地域子ども支援活動の周知方法

- ・デジタル配信中心の周知では保護者に十分届かない場合がある。
- ・紙媒体と QR コードを組み合わせた周知方法が有効との提案。

- ・学校との連携強化が参加促進につながるとの意見。

G グループ：まちのにぎわいと安全性

- ・駅南口の歩きにくさや街灯の暗さなど、安全面の課題が指摘された。
- ・若者が集える場所やイベントが少ないとの意見。
- ・商店街活性化や夜間の安心環境づくりの必要性が示された。

H グループ：防災と平時からの支え合い

- ・津波等の災害を踏まえ、避難体制や備蓄の在り方が課題として共有された。
- ・障害のある方や避難弱者への支援体制の見直しが必要との意見。
- ・登録制度の周知や継続的確認の重要性が指摘された。
- ・平時からの顔の見える関係づくりが非常時の基盤になるとの認識が一致した。

全体を通じて見えた共通点

- ・子ども・若者の参画が地域の活力につながる。
- ・情報は「出す」だけでなく「届く」工夫が必要。
- ・日常の関係づくりが、防災・福祉・環境の基盤になる。
- ・市民センター等の「つなぐ役割」が重要。